

# アムンディ・マーケットレポート

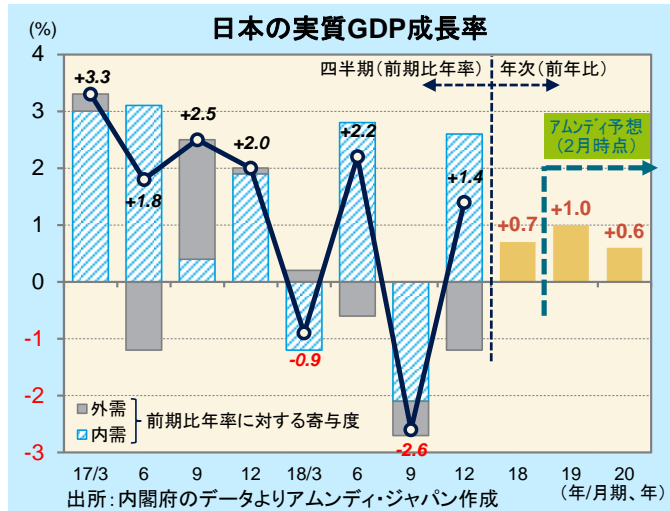
## 18年10-12月期 GDP 速報(日本)～市場は今後どう動く？

- ① 実質 GDP 成長率は前期比年率+1.4%でした。自然災害で落ち込んだ前期から内需が回復しました。
- ② 補正予算や手厚い消費税増税対策等の財政出動によって、19年は景気が加速すると予想しています。
- ③ 米利上げ打ち止めで為替相場は円高気味ながら、底堅い景気で株価は強含みに推移すると考えます。

### 経済活動は正常化

本日、内閣府が発表した18年10-12月期の実質 GDP 成長率は前期比年率+1.4%でした。7-9月期は相次いだ自然災害の影響で落ち込みましたが、経済活動は正常化し、内需主導でプラス成長へ回復しました。

実質 GDP 成長率に対する寄与度は、個人消費が+1.3%、設備投資が+1.5%と家計、企業の両輪がかみ合った成長の形でした。一方、外需(純輸出)は-1.2%で3期連続マイナスでした。対中輸出の減速などが影響しました。



◇実質GDP成長率の寄与度分解

18年の実質 GDP 成長率は、2度の前期比マイナス成長もあり、結局+0.7%にとどまりました。しかし、約 2.7 兆円の平成30年度補正予算や、GDP比0.5%程度とされる消費税増税対策といった財政出動により、19年は景気が加速する(成長率は+1.0%)と予想しています。

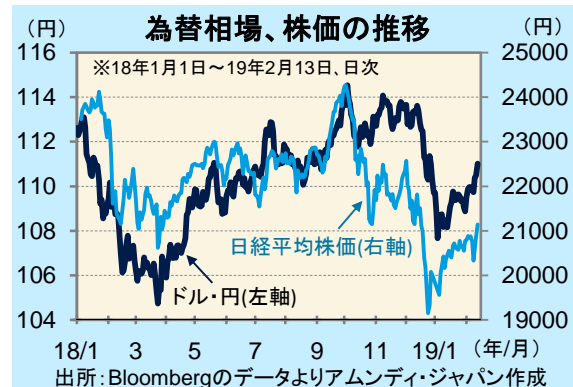
年月期	17.7-9	17.10-12	18.1-3	18.4-6	18.7-9	18.10-12
実質 GDP	+2.5	+2.0	-0.9	+2.2	-2.6	+1.4
個人消費	-1.8	+1.0	-0.5	+1.4	-0.5	+1.3
住宅投資	-0.2	-0.4	-0.2	-0.2	+0.1	+0.1
設備投資	+1.0	+0.5	+0.6	+1.6	-1.7	+1.5
在庫投資	+1.6	+0.8	-1.1	+0.1	+0.3	-0.8
公的需要	-0.3	+0.0	+0.0	-0.1	-0.3	+0.4
純輸出	+2.1	+0.1	+0.2	-0.6	-0.6	-1.2
ウチ輸出	+1.7	+1.5	+0.3	+0.3	-1.0	+0.7
ウチ輸入	+0.4	-1.4	+0.0	-0.9	+0.5	-1.9

注: 各項目合計が実質GDPと合わない場合がある  
出所: 内閣府のデータよりアムンディ・ジャパン作成

### 市場は波乱から鎮静へ

18年のドル・円相場、株価は波乱含みでした。世界的な景気の先行きに対する不安感増大に加え、米中貿易摩擦や、イギリス、ドイツ、フランスといった欧州の中心的な国が政治的に動揺するなど、経済外的な不透明感も膨らみました。

19年は、欧米金融当局が緩和気味のスタンスに転じたこともあり、景気が失速する可能性は後退したと見られます。また、政治的なリスクについては、年前半には大方方向性が見極めが可能になると見込まれ、市場は次第に落ち着くと考えます。ドル・円相場は、米金融政策の緩和スタンスへの転換から円高気味の推移が見込まれる一方、株価は、底堅い景気によって、最近見られる企業業績の下方修正は限定的と見られ、割安感も手伝って徐々に水準を切り上げると予想しています。



#### 本資料のご利用に当たっての注意事項等

本資料は、アムンディ・ジャパン株式会社が投資家の皆さまに情報提供を行う目的で作成したものです。  
本資料は、本資料に含まれるいかなる金融商品の販売や媒介を意図、または購入あるいは売却を勧誘する目的で作成されたものではありません。  
本資料は法令に基づく開示資料ではありません。

#### 投資信託に係る費用について

投資信託では、一般的に次の手数料・費用をご負担いただきます。その料率は投資信託によって異なります。さらに、下記以外の手数料・費用をご負担いただく場合、一部の手数料・費用をご負担いただかない場合もあります。詳細は、投資信託説明書(交付目論見書)・契約締結前交付書面をご覧ください。または、販売会社へお問い合わせください(カッコ内には、アムンディ・ジャパン株式会社が設定・運用する公募投資信託のうち、最も高い料率を記載しています。)

投資信託の購入時: 購入時手数料[最高料率3.78%(税込)]

投資信託の換金時: 信託財産留保額[最高料率0.3%]

投資信託の保有時: 運用管理費用(信託報酬)[実質最高料率2.2312%(税込)]、監査費用

運用管理費用(信託報酬)、監査費用は、信託財産の中から日々控除され、間接的に投資者の負担となります。その他に有価証券売買時の売買委託手数料、外貨建資産の保管費用、信託財産における租税費用等を間接的にご負担いただきます。また、他の投資信託へ投資する投資信託の場合には、当該投資信託において上記の手数料・費用が掛かることがあります。

※上記の費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することはできません。

本資料は、特定のお客様の特定の投資目的および財務状況または要望を考慮して作成されたものではありません。

本資料に記載した弊社の見通し、予測、予想意見等(以下、見通し等)は、当資料作成日現在のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また、見通し等や過去の運用実績を含むいかなる内容も、将来の投資収益等を示唆または保証するものではありません。

本資料は、信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性、完全性について保証するものではありません。

本資料に記載されている内容は、全て本資料作成日以前のものであり、今後予告なしに変更される可能性があります。

弊社は、本資料に含まれる情報から生じるいかなる責務(直接的、間接的を問わず)を負うものではありません。

弊社の許可なく、本資料を複製または再配布することはできません。

#### リスクについて

- ・金融商品等の投資にあたっては、市場動向等、また投資信託等へ投資する場合にはその裏づけとなっている金融商品等の価格が変動することによって損失が生じるおそれがあります。
- ・金融商品等の発行者または保証会社等の業務や財産の状況に変化が生じた場合や、裏付け資産の発行者または保証会社の業務や財産の状況に変化が生じた場合、金融商品等の価格が変動することによって損失が生じるおそれがあります。
- ・デリバティブ取引においては、預託した証拠金を担保として、証拠金を上回る多額の取引を行うことがありますので、相場の変動の要因等により生じた損失の額が証拠金の額を上回る(元本超過損が生じる)ことがあります。

投資した資産価値の減少を含むリスクは、投資信託を購入のお客様が負うこととなります。

投資信託は預金、保険ではなく、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関を通じて購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の保護の対象とはなりません。

お申込みの際は、投資信託説明書(交付目論見書)・目論見書補完書面等をお渡しますので、必ず内容をご確認のうえご自身でご判断ください。

販売会社店頭へ投資信託説明書(交付目論見書)をご用意してあります。

投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフの適用はありません。

アムンディ・ジャパン株式会社

金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第350号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会、

一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

<R1902052>